



自社にとって当たり前の技術やサービスが、違う業種や他国の顧客には、全く新しい意味や貢献につながる。他方、学生にとって経営者の方々の関わりは、大きな化学反応を起こすきっかけにつながる。今回は筆者の大学での講義について書いてみたい。

「日本の中小企業は、企業数の99・7%、従業員の70%を占めている。中小企業は、わが国の経済発展に重要な役割を担い、今後とも多大な役割が期待されている」。

「中小企業」を学ぶ

つていのか。2015年度から愛知中小企業家同友会様の協力を得て、「中小企業を学ぶ」という講義を聞講している。

前半5回では、筆者が中小企業の担う役割、中小企業の強み・課題、産業政策の変遷について講義した後、中小企業家同友会の尽力により聞講決定された「中小企業憲章」について、聞講決定に至る道筋、その後、国や地方自治体の中小企業施策がどのように変化したのか、政策委員長である経営者の方から1コマ講義をしていただく。

そして後半10回では、4名の経営者の方々から「経営戦略」と「中小企業で働く」というテーマで講義を聞講し、経営者と従業員の方々が講義内容を毎年工夫していただいたことが功を奏している。ご多用の中、登壇いただいた講師陣のご厚情に心から感謝の意を表したい。

「働くこと」の根本を考える



愛知淑徳大学 経営学部 教授
浅井 敬一 朗

誰もが知っている内容ではあるが、果たして大学生に中小企業はどのように映る」。

浅井 敬一 朗

していただいている。「経営戦略」では、経営理念がいかに企業経営の支柱になっているのか、一日にいくら売上が必要で、粗利がいくら必要なのか、自社がなぜ顧客にとってなくてはならないオンリーワンの企業になることができたのか、国際化が進展する中で日本の新入社員が給与がグローバルスタンダードで見られているか等々、経営者の方々の生々しい話が繰り返し聞かれる。

3年目を迎える2017年度は、新たな試みとして、経営者の方から提示されるディスカッションポイントを学生がチームごとにプレゼンし、単刀直入に評価していただいたコメントを基に、修正して再度プレゼンを行い、学生たちのポテンシャルを講師に見ていただく予定である。

学生が出した何十項目もの質問に2時間で回答を返信するスピード感、トライアスロンやホノルルマラソンを4時間以内で完走するなど、バイタリティあふれる講師陣に今年もお目にかかることをわくわくしながら待っている。

あさい けいいちろう 技術・生産管理、中小企業経営論。広島大学大学院国際協力研究科博士課程修了。博士(学術)。1967年生まれ。